

# 知恵の樹

No. 180 2013. 11. 20

町田の図書館活動を  
すすめる会

事務局：町田市森野3-1-12 増山方  
〒194-0022 FAX 042-722-1243

## 小さな村の 小さな図書館 富山県・舟橋村 舟橋村立図書館 高野良子

### はじめに

10月9日開館1時間前、台風24号の影響で強い風が吹き、図書館に併設した富山地方鉄道越中舟橋駅もダイヤが乱れていました。そんな中、カメラを持った男性と女性3人の方が図書館玄関にいらっしゃいました。立山登山の方が強風のため舟橋駅で足止めをくったのかなと思い「大変な天気になってしまい、残念でしたね」と声をかけたところ、なんと目的地が当館とのこと。すぐに中に入っていたが、館内を案内してまわりましたが、これがご縁で拙文ながら投稿することになりました。

### 日本一小さな村

北陸三県で唯一の村「舟橋村」は、富山平野のほぼ中央に位置し、面積3.47km<sup>2</sup>、人口3,000人の日本一小さな自治体です。明治2年の村制以来、村民の強い郷土意識のもと独立独歩の道を歩んできました。

富山地方鉄道越中舟橋駅が、村のほぼ中央に位置し、富山市中心部まで約13分、車で20分国道8号および北陸自動車道立山ICへは車で5分と地理的条件に恵まれています。富山市郊外のベッドタウンとして宅地化が進み、1990年には約1,400人であった人口が、倍以上に増加し15歳未満の年少人口が県内で最も高く活気ある村です。

東西=1,320m 南北=2,460m  
舟橋駅（図書館）、役場、小・中学校、保育所等の公共機関が村中心部に集中し、村内どこから歩いてでも約15分です。

### 図書館開館まで

平成の時代に入った村の人口は伸び悩み、公共交通の要である越中舟橋駅の老朽化も進み、乗降客の減少が顕著になり駅員の無人化も懸念される

事態になってきました。危機感を抱いた村は、交通の便の



左から松田さん、伊藤、丸岡、高野さん、手嶋良さを生かし、富山市のベッドタウン化を目指し、人口減少に歯止めをかけようとなりました。

まず、開発規制が厳しく村内における宅地造成を阻む市街化調整区域の指定除外が必要であると判断し、ねばり強く県へ働きかけ、昭和63年に全国で初めて、村内全域が調整区域から除外されました。さらに村は、宅地開発が進む中「越中舟橋駅」の利用増を図るためには、十分な駐車場の確保が欠かせないと判断し、パーク&ライド方式による駐車場を三次にわたって拡張し、約270台分のスペースを確保しました。この宅地造成と大型駐車場により、平成7年から12年にかけて村内の人口は30%という大幅な増加に転じ、地域における人々の動きが活発になってきました。

平成6年には「舟橋駅舎駅前整備委員会」が組織され、昭和56年から役場庁舎2階に併設されていた図書館の貧弱さや不便さ、女性団体等の要望等から、図書館を舟橋駅併設事業として整備する案が浮上してきました。村議会でも「地域総合整備事業」とすることが可決され急速に図書館再生への道が開けました。

そして、第一次総合計画の策定から約12年の歳月を要し平成10年4月1日、駅舎併設図書館としてオープンしました。

### 村の玄関に 駅舎併設図書館

駅の改札口を出るとすぐ図書館があり、RC3階

建ての本館は、延床面積 1,518 m<sup>2</sup>、1階が児童・AV コーナー、2階は一般コーナー、3階は書庫になっています。全館木製フローリングで靴を脱いで入り一階は床暖房になっており、寒さが厳しいこの地方でも、快適に利用することができます。

また、駅に併設している、駐車場が広いことなどの相乗効果により、土・日になると親子連れなどで賑わい村活性化に大きく貢献しています。

### 村民交流の場としての図書館

専任職員4名、嘱託職員1名で、年間10万冊を超える本等の貸出返却、それに付随する調査相談、企画立案、管理運営、対外折衝等を行っています。また、生涯学習の拠点として、村民交流の場としての大きな役割を担っており、独自の活動を展開しています。そしてそれらの活動の支えになっているのは、イソップの会のメンバーや住民との心の通った地域づくりへの連帯感です。

### 具体的活動

・おはなし会…ボランティアによるおはなし会や、図書館職員によるおはなし会、役場職員によるおはなし会を定期的に実施しています。「役場おはなし隊」は、3年前に結成され、村長をはじめ全員の職員が交代でおはなし会を実施し、村民とのあらたな交流の場となっています。おはなし会は館内だけでなく、小学校、乳幼児健診、子育てサロン、保育所、デイサービスセンターなどでの「出前おはなし会」も実施しています。



・お月見コンサート…毎年の恒例行事で、毎年9月の第1土曜日の夜に開催しています。今年もたくさんのちびっこを含む約120名の方々が、フルートとギターの調べを楽しみました。

・郷土の歴史を探る講演会…3年計画で50年ぶりの村史編纂中であり今年、「舟橋村の誇れるもの-村史編さんの窓から-」と題し村史編さん委員長に講演をお願いしました。

・各種展示会…美術会展、パッチワーク展、ガラス展、書展、油絵展など開催しています。搬



入・搬出・作品ガイドなど申込者が行いますが、図書館は会場の空きスペースに展示に関連した本を並べます。毎回200名～400名の方が入場されますので、たくさんの方々に図書館を知っていただくいい機会となっています。

### カモシカとしゃかん

・平成20年7月1日から「10年のあゆみ展」を開催しましたが、その3日目に国の天然記念物「ニホンカモシカ」が、来館しました。

たまたま、館外にいた私は、一足先に、自動ドアが開ききるのをまってトコトコ入っていくカモシカの後ろ姿をみました。まっすぐ絵本コーナーに向かうカモシカは、本当に絵本を見に来たかのような悠々ぶりでした。この珍事件は、テレビ・新聞・インターネットと全国ネットで取り上げられ舟橋村立図書館は「カモシカとしゃかん」として一躍有名になりました。この出来事を子どもたちに語り継ぎたいと絵本「カモシカとしゃかん」を発行しました。

### 村の中心に図書館

手探りの中での早16年目を迎えました。利用者の方々に親んでもらえるよう、カウンターに季節の花をかかさず、「○○ちゃん」と呼びかけられるよう子どもの名前と特徴を記録したノートをポケットに入れ、カウンター越しの対話を大事にし、職員皆で楽しく歩んできました。これからも「村に図書館があってよかった！」との声を励みに役割を果たしていきたいと思っています。

今年度の活動の一つ図書館見学の第2回目は、富山県の4つの図書館を訪ねました。その一つ舟橋村立図書館では、思わぬ歓待を受け記録写真を見せていただき、じっくりお話を伺うことが出来ました。後日、館長補佐の高野さんに原稿を依頼したところ、お忙しい中快くお引き受けくださり、本稿を頂きました。

今回の見学は、手嶋・丸岡・伊藤・増山の4名のみでの参加でしたが、特徴ある図書館ばかりで、有意義な2日間でした。次頁以降の報告は、参加者個々に寄せてもらった見学感想記を独断でMIXさせたものです。(増)

## 図書館見学 富山へ!

富山の図書館ガイド2013年版(富山県図書館協会/編・発)によると、富山県には、県立図書館1館、富山市立図書館(7+分館17+駅前南)、他市立(高岡5、魚津1、氷見1、滑川1、黒部2、砺波2、小矢部1+2、南砺5+3、射水5)、舟橋村立、町立上市、の56の図書館(含: +で表示の図書コーナー)がある。そのうちの4館を駆け足で見学した。

10/8(火)「小矢部市民図書館おとぎの館図書室」「小矢部市民図書館」(小矢部市総合会館3F)

10/9(水)「舟橋村立図書館」(中新川郡舟橋村)、「とやま駅前図書館・こども図書館」(富山駅前 CiC ビル4F)  
「富山市立図書館」(手嶋のみ)

伊藤倭子・手嶋孝典・丸岡和代・増山正子

越後湯沢から特急はくたかで高岡まで行き北陸本線に乗り換えて午後2時過ぎ石動(いするぎ)に着く。駅から車で8分程行くと田園風景が広がる中に文化会館や介護施設等の大きな建物が林立、そこに一番目を引く建物「おとぎの館図書室」があった。

### 📖 小矢部市民図書館「おとぎの館図書室」

エントランスから風除室を通り、館内へ。写真撮影の許可を乞うと、快く許可してくれ突然の訪問にもかかわらず親切にいろいろ案内して下さる。

1997年開館。1Fは、受付カウンターがあり、AVコーナーと絵本・児童書を中心にした開架スペース。広々とした書架が広がりあったか〜い雰囲気。書棚が目に入る。アットランダムに配置されているテーブルには、手に取って見やすいように各学校や地域の情報が並べられていて図書館が町の情報の発信として機能していることを感じられる。

2Fに上がると、円形状の3つの部屋「語りべの部屋〜いろいろを囲んでおはなしを聞こう」・「ピノキオ工房〜手づくり絵本をみんなで作ろう」・「アリスの部屋〜大きなスクリーンでアニメをみよう」があり、各々、小さい舞台やスポットライトがあったり、工作を楽しむ設備が整っていて手作り絵本作りも盛んで行われていたり、スクリーンのある部屋は会議室に使われていたり、と「本を『聞く』『作る』『見る』の3つの機能」を持つ多彩な活動がおこなわれている様子が窺える。平日のためか利用者は殆んどいなかったが、休日は多いそうで、子ども達が一泊と本に囲まれて楽しく過ごす様子が目に浮かんでくる。年を取っているせいか、少々気になったのが2階への階段がゆったりしているものの一枚板を渡したようなデザインで踏み込みがなく向こうが見えているのが怖いように感じた。広がりとか明るさに重点を置いたのだ



ろうか。「おとぎの館」という名称と外観から、かなりメルヘンチックな図書館を想像していたが、実際はとても堅実な図書館で好感が持てた。

見学を終え、コミュニティバスに乗り(乗客はわれわれのみ)、のどかな田園の中をバスにゆられて約15分、石動駅反対側にある「小矢部市民図書館」へ。

### 📖 小矢部市民図書館



駅から歩いて10分ほどに位置する複合施設の中の図書館。近くに学校もあり身近な図書館として市民に多く利用されている様子。玄関には、スパイクの泥を落とすこと、という立て札が。図書館の窓からは校庭で野球をする子どもたちのが見える。そのまま、図書館に来る子も多いのだろう。

つい小声で話し込んでいると、利用者から「静かに！」と注意をされた。特に印象が残るような図書館ではないが、地域資料のコーナーは、比較的充実しているように思えた。

石動から富山駅に戻り、温泉付きのビジネスホテルへ。夕食は、ホテルのフロントマンお勧めの郷土料理の店に行き、この旅の目的の一つである白エビを食べる。美酒と美味の食事で、一日目は無事終了。

翌9日は富山駅から富山地方鉄道本線に乗りかえ、越中舟橋駅と繋がっている「舟橋村立図書館」へ向かう。あいにく、台風26号で車窓は大荒だったが定刻通り電車は越中船橋駅に到着した。図書館開館までに30分ある。図書館の中をのぞき込んでいると、職員の方が声をかけてくださって、まだ清掃中ですがといっ入れて下さった。

## 📖 舟橋村立図書館(巻頭言参照)



富山県のほぼ中央に位置する県内唯一の「村」で、人口は3千人余り、全国1,700余りの自治体の中で一番面積の小さい自治体として知られている。

平成10年にオープン。当時の村長の迷った末の英断で村予算12億の内8億を使って建てられたという。村民だけでなく近隣の自治体の人たちにとっても利便性があることから駐車場は広く、村民以外には駐車料金を課している。越中舟橋駅舎とつながっていることもあってか、住民一人当たりの貸出し冊数は日本で登録者数は9割に上るそうだ。

今では、村長の英断に皆感謝をしているそうだ。村長はじめ役場の職員も図書館を村民との交流の場として子ども達への読み聞かせを行っているという説明に、「小さい自治体だからできるんだね」という言葉を発したものがいるが、そうだろうか？ 大きくても考え方一つで工夫すれば、可能なことなのではと、思った者もいる。小さな村の図書館とは思えない堂々としたものを感じる。

村の外国人もよく図書館を利用されるとかで外国の絵本の外国語によるおはなし会も開催しているとのこと。図書館ボランティア「イソップの会」が図書館と協働して活発な活動をしており、文科省からも表彰されている。中高生の利用も多く文化の拠点として図書館が十分に機能しているのが分かる。

不意の見学者への親切な対応—長い時間を割いているいろいろ親切に館内を案内して下さい、これまでの活動の膨大な写真をも見せて下さるなど—からも、利用者に対してもいいサービスをしていることが予見できる。館内の施設配置も含め、素晴らしい

図書館で、幸せな気持ちになった。

そもそも今回の図書館見学の発端は、田井郁久雄氏の『図書館の基本を求めて』(大学教育出版)で紹介されているこの図書館を是非見たいと思って企画したもので、一足館に踏み入れて、子どもに対する温かさ等感じられてとても嬉しく思った。小さな村にこんな素敵な図書館があることは村民にとっても一番の誇りでしょ。

帰りの電車を気にして駅改札口に行くと、強風のため途中駅で停まっていて動いていないとの事。電車が来たら知らせるというのでのんびりと高野さんたちと集合写真を撮っていたら(p3)、来たよ～、という駅員さんの声。慌てて電車に乗るが、車窓にはいつまでも手を振ってくれる高野さんたちの姿が…。

強風中、のろのろと富山駅に着き、小矢部や舟橋で「新しく駅前ビルの中にできた子ども図書館を見ていってください」と勧められていた駅前のCICビルへ。エスカレーターで4階に着くと正面に共通カウンター(右手「子ども図書館」・左手「南図書館」)があり、館内の撮影許可を求めたが、指定管理者による運営のためか、どこかへお伺いの電話をしている様子。直営でない弊害が現れていると感じた。

## 📖 「子ども図書館」

「まちなか子育て交流施設—とやま子どもプラザ」と銘打って「子ども図書館」は「子育て支援センター」とフロア一続きで併設されており、親子で本を楽しんだり、子育てに関する相談や保護者同士が交流・情報交換などをしたりできる場となっている。

今年3月にオープンしたばかりだそうで、新しさも加わってかフロア全体が原色(オレンジ、黄、黄緑、青、黒)の内装で、ゲームセンターに来ているようで落ち着きがなく、しばらくすると目が痛くなってきた。そのまぶしいくらいの図書館に人の姿はなく、主な利用対象は“乳幼児から小学校までの児童、その保護者”としているが、中学生らしき2人が波型に並ぶ書架の陰で携帯をいじっている姿を見かけただけである。図書館からも見渡せる「子ども支援センター」のフロアでは、乳幼児連れの若いママさんたちが大勢にぎわっているが、本のあるフロアには無関心の様子。もったいない！

食事してもよし、ゲームしても良いということで、寝そべる場所などがあり、駆けずり回れるようになっていた。

コーナーごとに半円形の書架でジャンル分けして

本を配置しているが(マ  
ンガコーナーもある)、  
本と親しむところで  
はなく、遊び場の  
雰囲気のほうが強く、愛されるスペースに将来なるのだろうか



と危惧を覚え、  
新しい本も飾り物のように見える。扇型に低い段差をつけた観客席を設けたおはなし室は、だだっ広く、靴を脱いで上がるようになっているが、幼い子にどんなお話をするのか想像がつかない。これからの図書館の在り方が考えさせられる。

📖 とやま駅南図書館は、仕事帰りや買い物の合間に気軽に立ちよれるようにと、10:00 から 21:00 まで開館している。たまたま漢方・薬膳の特集を組んでおり、いかにも富山県らしいと感じた。

手嶋さんは一人富山城社公園の一角にある古めかしい図書館 富山市立図書館本館へ。

## 📖 富山市立図書館本館

一般図書室(一般図書)と参考図書室(調査相談)が4階にあり、青少年図書室(児童図書・視聴覚資料)が5階にある。

一般図書室のカウンターで施設の写真撮影許可を求めたら、参考図書室に案内され、その責任者と思しき職員から何の目的で写真を撮るのかと質問された。図書館施設について学んでいると答えたが、相手はなかなか結論を出さない。私は業を煮やして、それなら結構ですとその場を離れた。県都の図書館なのに、今時こんな図書館もあるという事実だけを紹介しておく。

台風の余波で新幹線のダイヤが大幅に乱れて、列車が停まってしまった。やっと動き出した列車の自由席に乗って手嶋さんは帰路に向かったが、指定席を買っていた女3人は、駅構内で待つ事2時間、大幅に遅れてやって来た列車に乗り、結局予定より4時間近く遅れて町田に辿りついた。—富山は豊かな地、人々は温かくおおらかで優しく図書館に対する眼差しが違うように感じられた。(文責/増山)

## 武蔵野図書館めぐり 齋藤祐子

第15回図書館総合展(10月29日(火)~31日(木))のオプションツアー「澁田勝さんと行く武蔵野図書館めぐり」見学ツアーに参加、報告を寄せて下さいました。

武蔵野の近隣の個性的な図書館を巡るツアーに参加。11月に入って急に肌寒い初日の平日。迷った末に、少々厚手の上着を着ていく。案内役は、独協大学図書館の澁田さん。点呼の後、2人一組になりまずは自己紹介から。「昨日はなにしていました？」等、ひとしきり和んだところで出発。



武蔵野プレイス

### ◇ 武蔵野プレイス

図書館機能に生涯学習支援、青少年活動支援(キャリアカウンセリング含む)、市民活動支援を交えた複合施設。同じ建物に縦割りに機能が同居しているのではなく、1団体がすべてを運営・フロアも混成とあきらかに狙いがある様子。コンセプトの新しさは抽象的だが、建物全体の曲面をイメージしたデザインの斬新さとレトロ感が“柔らかな感じの良さ”を醸し出す。子どもの本のエリアには、童話にちなんだキャラクターのぬいぐるみがそここの棚から顔を出し、読み聞かせコーナーには大型絵本。600

を超える雑誌タイトルや、生活関連図書の充実(日本酒やシャンパン、酒の肴の本が並ぶコーナーなど)も特徴。総じて設備も備品も目配りが効いており、勘どころのいい人たちが議論を尽くして棚をつくったのだと思える。

制度的なことをいうと、指定管理者制度で特目的に1者指定、利用料金制は採用せず。質問するとしたら「複合的な施設でかつ、それらの領域の有機的な融合や化学反応を目的とする、と字面で言うとしたやすいがその効果測定や評価の尺度はどう考えるか」に尽きる。

とはいえ。1日5千人の来館者数と、視察の多さ、

かつ視察した多くの人が「羨ましい」と感じるコンセプトや設計、着眼点の良さは、すでにこの施設のまづまづの成功を示している。「自分の地元で欲しい、使いたい」というのが率直な感想。

#### ◇ ICU(国際基督教大学)図書館

キャンパスが広大で緑が多く、実に恵まれた環境。滑走路とも呼ばれる正面ゲートから建物群までの直線の道は、ここが旧中島飛行機の敷地だったことから来る名残で、その昔はゴルフ場と農場も併設だったとか。ああ母校(筑波)を思い出す、歴史の古さでは負けるけれど、ここの図書館は、ラーニングcommons(学生の学習スペース)と自走式書庫が売りという。ラーニングcommons、ん?と書いていたら要するに学生の学習スペースらしい。ぶち抜き



スタディーエリア (オスマー図書館)

のワンフロアに、1階は自習用にパーティションで仕切った個人机を、2階はグループ学習用に机を組み、さらに英文ライティングのサポートコーナーもあるとか。そして、自走式書庫は日本の大学で初の導入だったこともあり、見学のスペースから実に快適に見学。自走するコンテナと本がタグつけられるので、元のコンテナに戻す必要はなく、空いているコンテナのスペースに本を戻せると聞き、原理を知ってはいても感動する。図書館の新館には、オスマー図書館と寄付者の名前がついており、いかにもミッション系の、寄付で成り立つ大学風の由緒正しさがただよ。和書と洋書を同じ棚にジャンル別に並べる開架は、利用者がバイリンガルだからね、と納得。一面に日英の絵本コーナーがあり好評なのとか。語学の習い始めは絵本がいいということか。

#### ◇ 国立天文台図書館

天文台、来たかったのよね、という参加者多し。こじんまりした専門図書室は 9 割が洋書、ほぼ天文学の専門書が占め、一部に数学と物理、子供向け

の解説本など。あまりに偏った本しかないので独自分類を使用とのこと。



図書室をでてからせつかくなので、と見学者用のコースを堪能。天文台ですだからね、巨大な望遠鏡をふくめて見どころは多い。今年はこれからまた彗星が見られるとのこと。ここも広大な敷地のため歩き疲れ、日が落ちて寒くなったこともあり、同行者も口数が少ない。

#### ◇ 星と森と絵本の家

同じ敷地内にある、天文台の職員用の官舎(大正時代の木造の平屋建て)を移築し、森と星と絵本をテーマにした子ども用の施設へ。田舎の祖父母の家に来たような、ほっこり和む空間。靴を脱いで家に入ると、古い食器棚やら壁に仕込まれた絵本や仕掛けの数々に大人も歓声。疲れ気味だった参加者も、みな夢中になってあれこれと試してみている。広い庭には柿やびわが茂り、ハンモックに井戸、



木工コーナーまであって 30 円から木工が楽しめる。1日の最後にここにきたのは幸せだなあ、とすっかり参加者もいい表情。

個性的な図書館をめぐり、本好きにはうれしい大収穫の一日。武蔵野の夕暮れの中家路につく。

〔 まちだ語り手の会会員  
公益財団法人 神奈川芸術文化財団 〕

## 第15期図書館協議会第3回定例会

2013年10月24日(水)15時～17時

### 【館長報告】

#### 1. 教育委員会(10月4日)報告

①「**きのこ×文学)ワンダー★ランド～きのこ文学の森へようこそ!～**」展(文学館)／7/20～9/23／入場者数6313人(1日平均112.7人)／アンケートによる結果:20代～50代…66%、男女比…女性80%、町田、相模原以外の来館者57%。情報拡大により遠方(北海道・東北・北陸・九州など)からの来館があった。

②「**赤川次郎展～三毛猫ホームズから愛をこめて**」(文学館)の開催(10/19～12/23)／一般400円、65歳以上・大学生200円(無料:10/19・27、11/3、12/23、高校生以下)／展示の他、赤川次郎氏の講演・様々な催し・小田急線での車両広告等を展開

③「**第7回文学館まつり**」(文学館)／10/27(日)

#### 2. その他

・第三次子ども読書活動推進計画策定委員会について。(第1回、10月2日本庁舎)

町田市は2015年度から第三次推進期間に入るため推進計画原案を作成し、市民意見を反映させて度末迄に計画を策定する／推進会議の構成メンバー:町田市公立小学校長会・町田市公立中学校長会・町田市公立小学校PTA連絡協議会・町田市公立中学校PTA連合会・町田市私立幼稚園協会・町田市法人立保育園協会・町田市立図書館協議会の各代表、図書館及び学校図書館に係るボランティア(2名)、子ども生活部子育て支援課長、子ども生活部児童青少年課長、学校教育部教育総務課長、学校教育部指導課長、生涯学習部図書館長

### 【協議会委員長報告】

#### 第1期第11回生涯学習審議会(10/3 本庁舎)

##### 1. 町田市教育プラン改定の庁内検討について

パブリックコメント(10/1～10/31)の概略を説明。

11月末に意見集計、回答作成。

教育プラン(案)の作成／1月:庁内会議で審議／2月:教育委員会定例会で審議／3月:パブリックコメントに寄せられた市民意見の概要と回答の公表・町田市議会に教育プランを報告・公表

##### 2. 生涯学習推進計画の検討経過について

原案たたき台の内容説明と各委員の意見交換

今後の経過 11月・12月-生涯学習審議会:原案(案)の報告／12月-教育委員会事務局:原案確定／1月-教育委員会定例会:原案報告、市民意見募集(2週間程度)／2月-教育委員会定例会:

計画案の報告／3月-市議会常任委員会:行政報告、生涯学習推進計画の公表

☆生涯学習推進計画(図書館関連項目のみ報告)

#### 「生涯学習推進計画」とは

2013年度改定の教育プランに基づき、教育プランで掲げた生涯学習施策を推進するための行動計画(アクションプラン)として、「町田市生涯学習推進計画」を策定／この計画の下に、図書館事業計画(2013～2017年度)は位置づけられる。

#### ①基本施策と個別施策

##### \*基本施策2 自主的な学習支援

・**個別施策1学習相談の充実**／取組:生涯学習センター、図書館の連携による総合学習相談の実施、図書案内、レファレンスサービスの充実

・**個別施策2学習資料の提供**／取組:図書館資料(視聴覚資料含む)の貸出・閲覧、リクエストサービスの充実、デジタルコンテンツの充実 → (図書館HPも含む)、他市の図書館との相互利用協定

・**個別施策4学習成果を活かす機会の充実**／取組:市民団体などとの共催事業の実施、学習成果の発表機会の支援(まちだとしょかん子どもまつり)

##### \*基本施策3 学習環境の整備

・**個別施策1学習施設等の充実**／取組:(仮称)忠生図書館の整備、ICタグ導入、地域資料のデジタルアーカイブ化推進、

・**個別施策2学習事業の効果的な運営**／取組:司書、社会教育主事相当の知識を持つ職員の養成(図書館職員研修)

・**個別施策2生涯学習の調査・研究** 世代別学習ニーズ調査の実施／取組:図書館利用者アンケート(3年ごと)

#### ②重点課題と重点事業

##### \*重点課題1 生涯学習の一層の拡充

**重点事業1-5 地域活動の支援**／(ねらい)地域資料及び司書の情報集能力を地域活動支援のために活用

##### \*重点課題2 図書館の利便性のさらなる向上

**重点課題2-1 ICタグの導入**／(ねらい)市民が図書館を利用しやすくなるよう、図書の貸出・返却に関する利便性を高める → ICタグシステム導入、予約資料受渡拠点の拡大

**重点課題2-1 地域のサービス拠点の整備**／(ねらい)市内のあらゆる地域に住んでいる住民が、図書館を利用しやすくなるよう、地域のサービス拠点の拡大を進める → 仮称忠生図書館

**重点事業2-3 地域資料の活用の推進**／(ねらい)図書館で管理している地域資料をより市民が利用しやすいかたちで提供できるよう整備を進める → 図

書・視聴覚資料の充実、地域資料のデジタルアーカイブ化推進

## 【協議事項】

### 1. 図書館評価について

- ①「町田市立図書館の外部評価に関する報告」
- ②「町田市の図書館評価(2012年度)」／図書館側にて外部評価内容を各部署にて検討のうえ、今後協議会と意見交換の場を設ける。

### 2. その他

#### 1) 図書館評価の今後の課題

次期五カ年の図書館評価の在り方について、図書館側と意見交換の場を設ける。特に、評価項目の在り方、評価についての考え方などを過去の評価経験から意見交換し、次期五カ年の図書館評価

実施に資する。

#### 2) 図書館視察について(委員長発案)

町田市の図書館の現状を知り、今後の協議会活動に資することを目的に行いたい。

- ①中央館の視察:バックヤード、障害者サービスを中心に1時間程度。11月の協議会の開催に合わせて協議会の時間前に行う。
- ②地域館の視察:市内全地域館を視察予定。時期を2回に分け、協議会開催日とは別に半日程度の視察を考える。時期は未定。協議会の審議に影響を与えない範囲で、早めの実施を予定。

■次回協議会;2013年11月28日15時～中央館6階ホールにて開催予定。(文責:山口)

## 宮崎淳子さん きょうなら

10月20日(日)17時より、9月16日に逝去された淳子さんをおんで、「ジャズ喫茶 Nica's」にて友人によるお別れ会をしました。当日は、ご主人(写真右)が、淳子さんの好きだった音楽をずっと流して下さり、集まって下さった20名一人一人がお線香を手向け、淳子さんの思い出を語り合い永久のお別れをしました。参加された方から感想を寄せていただきました。



祭壇の前で



和やかな、宮崎さんを偲ぶのにふさわしい会だったと思います。ご主人のご挨拶が心に沁みました。「淳子は、子どもの本のことや図書館のことを皆さんと一緒に、本当に楽しそうにやっていました。それが、私がこの店を開くことにしたものだから、それらをすべて止めて支えてくれました。男なんてどうしようもないもので、時には喧嘩もしたのですが、最後にはそんな私のことも許してくれました」。宮崎さんへの深い思いが滲んだご挨拶でした。(守谷信二)

一番に会場に着いて、もしや・・・と思ったが、やはり迎えてくれたのは、写真に納まった宮崎さんでした。一枚は私たちの知らない学生時代の宮崎さん。瞳をまっすぐ上方に向け微笑んでいる写真。もう一枚はお店の中で、何ヶ月か前に撮ったものとのこと。バックに映っているのはレコードの並べられた棚。その前でゆったりと音楽に耳を傾けているらしい横顔。外は冷たい雨の日でしたが、写真を囲み、一緒にジャズを聴き思い出話を聞き豊かなひとときを過ごすことが出来ました。宮崎さん、今までありがとう。(伊藤倭子)

初めてお目にかかる方も数名いらして、淳子さんとの関わり方も人それぞれだったことが興味深かった。私が知らなかった淳子さんの一面についての話も聞くことができたので、とてもいい会だった。話をしている最中に、本人が厨房からひょっこり顔を出すのではないかと思ってしまった程である。(手嶋孝典)

ファージョンの物語、あの挿絵に出てくる女の子に親しみを感じている方は少なからずいることでしょう。私は淳子さんを想うとき、さりげないおしゃれな雰囲気からファージョンを連想してしまいます。落ち着いた声の調子から語りも独特の雰囲気があり、耳に残っているのは「油とり」(山形民話)と「たまごのカラの酒つくり」(アイルランドの昔話)2つです。

淳子さんが語りの現場から退かれたとき、私はあの不思議な世界がもったいなくて、淳子さんにも勧められて「たまごのカラの酒つくり」を覚えましたが、聞いていただくチャンスのないままに終わってしまいました。実に残念でなりません。(丸岡和代)





町田市立図書館 第29回 団体登録利用者懇談会  
マンネリ化を打破しよう!

去る11月14日(木)14:00~16:00、1年に一度の表記懇談会が行われ、今年度団体登録をしたすすめる会として出席した。配布資料を見ると、昨年の団体登録は、地域文庫15、読書会54、幼稚園・保育園24、小学校・中学校47、学童保育クラブ18、その他26、の184団体。その内この日出席したのは、17団体。団体なのだから、一人ぐらい都合のつく人がいるのではと思うのだが、顔ぶれは毎回殆ど変わらない。

図書館館長も出席され全館から職員が1名は参加するという、図書館としては一大集会なのだが、どうもひとつ盛り上がり欠けているように思う。

それは何故か考えるに、自己紹介と図書館への同じような質問やお願い事で殆どの時間が費やされ、マンネリ化されてしまっており、有意義な会合であったと満足できないからではないからだろうと推測する。

毎年団体には登録の更新を義務付けており、その手間も多忙な図書館員にとっては大変な作業だと思うが、年間22,631冊の貸出を受け、社会活動をしていると思われるグループの人たちの何割が、図書館のこうしたサービスに感謝しているのだろうか？

全国的に、図書館運営を外部に委ねて手をひこうとしている自治体が多い危機的状況の中、町田市では図書館長をはじめ職員の方たちが頑張って直営を保っていてくれることを、どれだけの人分かっているのだろうか？ただ、長期に大量の本を貸し出してもらえると恩恵を受けるだけでなく、もっと、図書館との関わりを密にして、図書館をサポートする側にもまわって欲しいと思う。図書館を利用するだけの市民から、図書館を支え発展させるために努力する市民として、特に、団体登録をしているグループは目覚めて欲しいと、「懇談会」に出席するたびに、「懇談会の意義」とは何かを考えてしまう。皆さん！本会「・・・すすめる会」へどうぞ！（増山正子）

第28回 のづた丘の上秋まつり 開催



去る11月3日(日)、くっきりと晴れわたった秋空の下、自然を愛し、文化・教養をめでる20団体が、野津田公園の原っぱで一日楽しく過ごしました。

午前中屋台と工作を存分楽しんだ子どもは、お腹を満たすと「まちだ語り手の会」と「すすめる会」のゾーンにやってきて、お話を聞いたり、絵本を読んでもらったり。伊藤・丸岡・増山は休みなく喉もカラカラ。この場所が市の整備計画でスポーツ用に造成されるかもという情報に、危惧を抱く人たちが大勢集まった。(M<sup>4</sup>)

◇ イベント情報 ◇

● 第24回被爆者つどう会／12/8(日)13:30～16:30 町田市民文学館こぼらんど2F大会議室／長崎での被爆体験・福島第一原発事故被害者の体験・原発に頼らない安心できる社会へ／無料 町友会とともに生きる会 Tel&Fax 044-987-4785(本間)

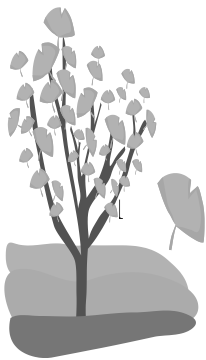
● 神奈川の図書館を考えるつどい・2013「未来をつくろう図書館で！Part5」井上一夫さんを囲む会—映像で語る武雄市図書館本当の事—／2013/12/7(土)14:00～16:00(13:30開場) 平塚市美術館1階ミュージアムホール(JR平塚駅東口改札(北出口)、西口改札より徒歩20分、タクシー5分)／佐賀県武雄市図書館が話題になっています。武雄市側やメディアによる情報は目にすることができますが、市民の立場からの声はなかなか見聞きすることができません。リニューアル開館前後を良く知る市民・井上氏の話を通じてわたしたちの未来をつくる図書館のあるべき姿について考えてみましょう／定員:150名※資料あり要申込:FAX 045-532-9903、メール:fukutomi@tk2.so-net.ne.jp(福富) tomorrow\_toshobo@yahoo.co.jp(諸山)／「12月7日」①お名前②連絡先③申込み人数総数を記入／主催:神奈川の図書館を考えるつどい・2013参加団体

● 講演会「ぼくは、図書館がすき 全国の図書館を撮り続けて37年」／12/1(日)13:30～15:30 東大和市立中央図書館2階 視聴覚室／申込不要・無料／写真展「ぼくは、図書館がすき IN 東大和」期間:～12/18(水) 図書館開館時間(10:00～17:00) 2F展示コーナー／共催:東大和市立中央図書館 主催:東大和の図書館を考える会 場所は図書館HPをご覧ください。

<http://www.lib.higashiyamato.tokyo.jp/contents/library/kakukan.html>

● 2013年・麗博物館 企画展示「絵本で知ろう！おとなりの国～韓国・朝鮮の絵本から」／～2014/1/26(日) 400円／日本語に訳された韓国の絵本を多く展示・絵本『あおがえる』原画展／市民がつくる日本・コリア交流の歴史博物館 03-5272-3510 eメール:kourai@mx7.ttcn.ne.jp

● 第14回子どもに豊かな育ちと読書のよこびを 学校図書館・公共図書館の充実を求めるつどいin東京「学校図書館の充実を求めて—全ての学校に専任・専門・正規の学校司書を」／2014/1/13(祝)10:30～16:30 全国教育会館(東京メトロ麹町駅歩2分) 500円／記念講演「憲法と教育(仮題)」講師:金平茂紀(TBS・報道特集キャスター)、分科会(13:15～)／集会実行委員会 03-5211-0123(事務局団体:自治労連・日本高連・全教)



# ひろば

10月の例会報告 10/16(水)

・16:00～17:00号印刷(伊・玉・丸・増・桃)

・18:00～20:00 中央図書館印刷室

**出席者:**石井、伊藤、久保、黒田、  
多田、玉目、手嶋、前田、増山、  
丸岡、目黒、桃沢、山口

●宮崎淳子さんを偲ぶ会・・・2013/10/20(日)17時～、Nica'sで。宮崎さんが所属していた「すすめる会」「まちだ語り手の会」の人に呼びかける。(8p)

●会報について・・・舟橋村立図書館館長補佐・高野さんに巻頭言を依頼する(p1)、参加者の富山図書館見学レポート(p3～)

●協議会報告(山口)・・・外部評価の報告書を月末までに館長に手渡す。館長に毎回図書館や教育委員会の動向を報告してもらう。生涯学習審議会委員をやることになった。委員会に出て分かったことは他の委員の図書館に関する認識の不正確さ(例:町田市内の図書館の数、南町田の予約受取について知らない等)。パブリックコメント募集は月末まで。

●野津田公園問題・・・基本計画案を見て吃驚。市内のスポーツ団体に「何が欲しいか」を訊いてそれを全て盛り込んだ計画が出されている。懇談会で

町田の学校図書館を考える会主催

連続講座 第1回『本の補修に挑戦!』

日時:12月14日(土)13:30～

場所:文学館第5会議室

講師 市川博子さん(町田市立鶴川駅前図書館/会員)

人気の本はすぐに傷んでしまうけれど、すぐに買い替えることはできないし・・・

こんな悩みをお持ちの図書館も多いのではないのでしょうか?

補修に対する考え方と実践をご一緒に学びましょう。時間をかけない、簡単にできる方法をご紹介します。

(資料費 300円)

問合せ:Tel&Fax 042-799-0467(清水)

メール [yokoshimizu716314@gmail.com](mailto:yokoshimizu716314@gmail.com)

2013年度 第9回 文学館(主催)で楽しむ

おとなのためのおはなし会

12月19日(木)10:30～11:30

町田市民文学館 2F大会議室

プログラム (通算79回)

\*町田ゆかりの作家「安野光雅」 砂川 とき江

\*釘のスープ(スウェーデンの昔話) 佐羽 悦子

\*大歳の火(日本の昔話) 佐々木 令子

\*羅生門(芥川龍之介 作) 望木祐子

語り手はNPOまちだ語り手の会会員

直接会場へどうぞ! 無料 保育有

(町田市民文学館 ☎042-739-3420)

一度も話題にならなかった「総合スポーツパーク」になっており、懇談会の内容を無視して計画を進めようとしている。パブコメで主な意見として出されていたものも、真偽は定かではない。薬師池公園でも同じことが起こっている。公園周辺を七つの国に見立てて「汽車?」を走らせる? ポリシーなど感じられず、思いつきでやっているとしか思えない。(出席者:ワイワイ、ガヤガヤ)

●NPO受託図書館についての見解(結局民間がやってもNPOがやっても一緒に、ひよっとするとNPOが一番最悪のパターンかもしれない。宇都宮では指定管理化に反対した協議会をつぶした。町田もない話ではない)。

●講演会について(手嶋)・・・テーマ:労働問題。竹信三恵子さんは年内無理(→来年の9,10月の土日)ということまで話を進めている。次回例会で日程を決めたい。)もう一人の候補、上林陽治さんに依頼したところ快諾を得ることができ、2月23日に講演会を行うことに。この日は、町田市市長・市議の選挙日。講演内容についても、もう少し詰めたい。

●嘱託労→11/28(木)定期大会が開催され新役員が決定する。

**あとがき** 映画「ハンナ・アーレント」を見た。自分の意思を全く介在させず上層部の命令を遂行しただけだと決まり文句を繰り返すナチス戦犯アイヒマンの裁判を傍聴した彼女は、彼を理解する。人間の大切な思考する能力を放棄することで、モラルまで判断不能となり、平凡な人間が残虐行為に走るのだ、と。思考の嵐がもたらすのは、知識ではなく善悪を区別する能力であり美醜を見分ける力で、どんなに危機的状況にあっても考えることで人間は強くなる、と。権力者の言いなりになって罪を感じない人間ほど怖いものはない。(M4)